

高等学校 令和8年度（3学年用） 教科		国語	科目	古典探究
教 科：	国語	科 目：	古典探究	単位数： 2 単位
対象学年組：第 3 学年 1 組～ 7 組				
教科担当者：（ 1 組：坂元、2 組：坂元、3 組：坂元、4 組：尾山・坂元、5 組：尾山・坂元、6 組：尾山、7 組：坂元 ）				
使用教科書：（ 「新編古典探究」東京書籍 ）				
教科	国語	の目標：		
【知 識 及 び 技 能】		生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。		
【思考力、判断力、表現力等】		論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。		
【学びに向かう力、人間性等】		言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。		
科目	古典探究	の目標：		

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			話・聞	書	読					
A	古文 『宇治拾遺物語』 小野篁、広才のこと 【知識及び技能】 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。	・展開のおもしろさを味わいながら、説話を正確に読み取る。 □説話文学の特徴や文学史について、「言語文化」の学習を踏まえ、確認する。 □資料集などで出典について調べる。 1 帝の篁への疑いの原因と、その疑いを晴らしたものが、ともに篁の学才にあることを理解する。 （手引き1） 2 言葉遊びのおもしろさがどこにあるかを読み取る。（手引き2） 3 「帝ほほ笑ませ給ひて、事なくてやみにけり。」となった理由を考える。（手引き3） □帝と篁のやりとりのおもしろさをまとめる。 ・一人一台端末の活用。	○	○	○	【知技】 ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 【思判表】 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。 [主] 進んで古典特有の表現に注意して展開のおもしろさを味わい、学習課題に沿って、説話を正確に読み取ろうとしている。	○	○	○	6

1 学 期	B 古文 『伊勢物語』 東下り 【知識及び技能】 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に関わろうとする態度を養う。	・歌物語の特色に注意しながら、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を読み取る。 □歌物語の特徴および『伊勢物語』について、既習の事柄を整理する。 【東下り】 1 本文を通読し、旅の行程に注目しながら、いくつかの場面に分ける。（手引き1） 2 第一段落の重要語に注意し、現代語訳する。 3 主人公の「男」が「東下り」をするに至った事情について学び、その時の男の心情を考える。 4 「唐衣…」の歌に用いられた和歌の修辭を理解するとともに、そこに詠み込まれた心情を理解する。（手引き2） 5 第二～第五段落において、どのような場所を、どのように旅したか、具体的に考える。 6 第二～第四段落において、「宇津の山」「富士の山」がどのように描写され、和歌に取り入れられているか考える。 7 第五段落において、「すみだ川」のほりでの、男たちの心情について考える。（手引き2） 8 全体を読み直し、男たちの心情の変化を、和歌に着目し、整理する。（手引き2） □『伊勢物語』を例に、歌物語の特徴をまとめ、理解する。 ・一人一台端末の活用。	○	○	○	【知技】 ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辭などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 【思判表】 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 【主】積極的に歌物語の特徴について理解し、今までの学習を生かして、登場人物の心情や作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を読み取ろうとしている。	○	○	○	8
	定期考査						○	○		1
	C 古文 『大和物語』 娵捨 【知識及び技能】 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に関わろうとする態度を養う。	・歌物語に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、自分の考えを深める。 □作品についての解説を開き、概略を理解する。 □娵捨伝説を知り、興味を持つ。 【娵捨】 1 話の概略を理解する。 2 「をば」を山に捨ててまでの男の気持ちやどのように変化しているかをまとめる。（手引き1） 3 男が「をば」を迎えに行ったきっかけを読み取る。（手引き2） □各地に伝わる娵捨伝説について調べて、発表する。（言語活動） □『伊勢物語』と比較し、歌物語としての『大和物語』の特質を理解する。 ・一人一台端末の活用。	○	○	○	【知技】 ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辭などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 【思判表】 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 【主】積極的に歌物語の特徴や古典における和歌の効用について理解し、今までの学習を生かして人物の心情を理解し、娵捨伝説についての自らの考えを深めようとしている。	○	○	○	6

D 漢文 唐詩 【知識及び技能】 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。	・漢詩に描かれている情景や心情を読み取り、優れた表現に親しむ。 □「言語文化」で学習した「漢詩の形式ときまり」をコピーして配布したり、便覧などを利用したりして、漢詩のきまりや特色を思い出す。 【送元二使安西】【登岳陽樓】 1 それぞれの作者について理解する。 2 詩を声に出して読む。（手引き1） 3 それぞれの詩の内容を捉える。 4 唐詩の詩形、押韻、対句の表現について考える。（手引き3） 5 正確な現代語訳をする。 6 繰り返し朗読して唐詩の調べを理解し、暗唱する。（手引き1） 7 訳詩を試みる。 ・一人一台端末の活用。	○	○	○	【知技】 ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 【思判表】 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 【主】進んでさまざまな唐詩を読み味わい、学習課題に沿って、言語感覚や想像力を豊かにしようとしている。	○	○	○	8
定期考査						○	○		1

E 古文『枕草子』 【知識及び技能】 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。	□この作品の内容と作者について、今までの学習で得ていた知識とともに、簡単に整理し、理解する。 【ありがたきもの】 1 この章段の「ありがたし」の意味を、列挙されているものから類推する。（手引き1） 2 列挙された事例の特徴を考える。（手引き2） 3 『枕草子』のパロディである『枕枕』、『尤之双紙』の一部を読み、内容を理解するとともに、それぞれの工夫について考える。（古文の窓4） 【九月ばかり】 1 作者の自然を見る視線の鋭さが、どの描写に見られるかを読み取る。（手引き1） 2 「をかし」の語に込められている作者の心情を読み取る。（手引き2） 【中納言参り給ひて】 1 登場する人物を挙げ、会話部分の誰の言葉であるかを指摘する。（手引き1） 2 「さては…くらげのななり。」について、その意味内容を読み取る。（手引き2） 3 隆家と作者の会話から、二人の人物関係について理解する。 4 末尾の記述に表れている作者の心情を読み取る。（手引き3） 【雪のいと高う降りたるを】 1 場面を読み取り、発言の主体と動作とを把握する。（手引き1） 2 作者のどのような行動が中宮の心になったのかを読み取る。（手引き2） 3 女房たちが作者をどのように評価していたかを読み取る。（手引き3） □各章段の内容上の特徴について	○ ○ ○	【知技】 ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 ・先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 【思判表】 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 【主】進んで軍記物語の表現の特徴について整理・理解しつつ特徴を生かすよう工夫して朗読し、学習課題に沿って描かれた人物像を読み取ろうとしている。	○ ○ ○ 8
F 古文『徒然草』 【知識及び技能】 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。	・随筆に表れている作者のものの見方、感じ方、考え方を読み取る。 □随筆文学が、作者の自由な目で記されたものであり、題材・文体が多岐にわたることを理解する。 【丹波に出雲といふ所あり】 1 主語を確認しながら、話のあらすじを読み取る。 2 聖海上人の言葉の変化に沿って、その心情を読み取る。（手引き1） 3 この話のおもしろさは、どういうところにあるか説明する。（手引き2・3） 【九月二十日のころ】 1 主語に注意しながら、話のあらすじを読み取る。（手引き1） 2 人物の行動を整理する。（手引き1） 3 作者の「その人」に対する評価をまとめる。（手引き2・3） 4 絵の違いを見つけ、その違いについて考えたことを話し合う。（言語活動） ・一人一台端末の活用。	○ ○ ○	【知技】 ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 【思判表】 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 【主】進んでさまざまな唐詩を読み味わい、学習課題に沿って、言語感覚や想像力を豊かにしようとしている。	○ ○ ○ 8

2学期

定期考査								○	○		1
G 古文 『大鏡』 【知識及び技能】 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。	□歴史物語としての『大鏡』の特色を簡略に理解する。 □古老たちが見聞した昔話を若侍に語るという叙述方法は、どのような効果をもたらすかを考える。 【道真の左遷】 1 登場人物を確認する。（手引き1） 2 帝の処置の厳しさと、「東風吹かば…」の歌に表れた道真の心情を読み取る。（手引き2） 【道長、伊周の競射】 1 道長と道隆・伊周との関係を確認する。 2 勝負の延長を要求した道隆の意図と、それを受けての道長の言動について、伊周と比較しつつ考える。（手引き1・2） 3 勝負の結果を受けての道隆の心境と、その後の展開を考える。（手引き3） 【言語活動】 1 さまざまな道真伝説の中から、興味を引かれたこと、調べてみたい事項を選ぶ。（課題） □道長を中心にして、『大鏡』の示す理想的な人物像を考える。 □『栄花物語』との比較を便覧などで調べ、まとめる。 ・一人一台端末の活用。	○	○	○						8	
H 漢文 『寓話』 塞翁馬 【知識及び技能】 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。	□「寓話」という言葉を国語辞典・漢和辞典で調べ、教訓的な内容を、たとえを用いて表した話であることを理解する。 □寓話の出典が書かれた時代を、教科書巻末の「中国文学年表」で確認し、それぞれの寓話が春秋・戦国時代という価値観の混乱した時代から生まれたことを理解する。 【塞翁馬】 1 本文を繰り返し音読する。 2 正しい訓読をもとに語彙を調べ、正確に現代語訳する。（手引き1） 3 「塞翁」と周囲の人々の場面ごとの言動を確認する。 4 本文に述べられている「禍」と「福」について順番に指摘させ、ノートにまとめる。（手引き2） 5 「塞翁」の考え方について確認する。 6 「塞翁が馬」という故事成語の意味や使い方を理解する。（手引き3） ・一人一台端末の活用。										5
定期考査								○	○		1

[illegible]